

水俣チッソ

縮小・撤退は考えず

副社長 語る 再建計画予定通り

水俣病で企業責任が問題になっているチッソ（本社東京、江頭豊社長）の島田賢一副社長は十八日、本社で「水俣工場の再建計画は既定方針通り実施するつもりであり、一部で報道されているように同計画を大幅に手直ししたり、水俣から撤退したりする考えはない」と次のように語った。

一、江頭社長はこのほど東京本社で開いた組合側との交渉の席で「再建計画が不安になってきた」と言明したことは事実だ。しかしこれは水俣工場を大幅に縮小したり、撤退することを意味するものではない。

一、当社としては昨年夏発表し

た同工場の再建五年計画（四十三年四十七年度）を既定方針通り実施する意向に変わりはない。会社側は同工場の石油化学の基地としての工場転換に懸命になっており、塩化ビニールの製造も原料をアセチレンからエチレンに切り替

え、水俣工場（岡山）からエチレンを海上輸送する計画を変えていない。

一、しかし、地元が平穏でなければ同工場の再建計画の一部を手直しせざるを得なくなるだろう。たとえばチッソは関係会社の山口

製作所（本社・横浜市）の工場を水俣に誘致させるなど、関連企業の誘致や従業員の配転を積極的に行ってきたが、地元側の動向によつてはこれらの計画も大幅に狂うことになる。